

緩和ケア病棟

さとわ

No.8

緩和ケア病棟「郷和」理念

1. 豊かな自然環境の中で、その人の気持ちに添ってケアするとともにその家族を支援します。
2. その人のもつ苦痛の緩和につとめます。
3. その人の希望に添って自宅での生活を支援します。

郷和、この1年

施設長 桜井 金三

本年は1年を通して常時10人位の方をお待たせすることになってしまいました。予約されて転院していただく前に亡くなられた方も、何人もいらっしゃいました。大変心苦しく、胸が痛みます。いつまでもこのような現状ではいけないと考えています。解決の方向として、がん治療病院・緩和ケア病棟・診療所・介護施設などの有機的な連携構築に向けて、郷和として何ができるか引き続き取り組んでいきたいと思っております。その一環ですが、今年度は、介護施設職員向けの緩和ケア研修を開催しました。

地域の看護職向けの研修は、郷和の年間スケジュールに組み込まれて、行われました。大変好評をいただいております。来年以降も工夫を凝らして、内容を充実させていきたいと考えています。遺族会も軌道に乗りましたが、今のスタッフの力量からは年1回の開催がやっとといったところで、せめて年2回の開催を目指したいと思っております。ボランティアさんの活動も例年と変わりなく、活発に行われました。すっかり郷和の日常の風景に溶け込んでいます。新たにおひとりのボランティアさ

んを仲間に迎えることができました。

今年も新しいスタッフを迎えましたが、しかし離職された方もおられ、変わらずスタッフ不足の状態です。そんな中で、スタッフの健康管理、特にストレスへの配慮・対策が重要になっていると感じています。生命の危険にさらされた患者さん・ご家族のケアには、多大な努力を必要としますし、「感情労働」はかなり疲労を伴います。これまでなんとなくしのいできたのですが、本腰を入れて取り組んでいかなければ、と考えています。

開設から本年まで、郷和を立ち上げ軌道に乗せるために尽力された坂田安之輔先生が、本年末で郷和を離れられました。「生涯現役」の先生は、泌尿器科医として、これからも地域医療を担われます。健康に留意されご活躍ください。今までのご苦勞に心より感謝申し上げます。これからも郷和を見守ってください。

来年は開設10年の節目の年になります。山積した課題のなか、スタッフの健康に注意しながら、ひとえに患者さんのため努力していきます。

「ご遺族からのお手紙」

前略、季節も移り変わり新緑の候となりました。皆様の心温かいお励ましのお便り、誠に有難うございました。弟の入院のときはお世話になりました。私たちは覚悟はしていたとはいうもののやはり残念でなりません。天命とあきらめるほかはありません。

すべてのものが幸せで安らかな生活を送れるように願いたいものです。未熟な私どもですが気を取り直して頑張るつもりです。緩和ケア病棟のスタッフ一同の皆様のご健康をお祈り申し上げます。

春がすぐそこまで来ていながらなかなか暖かくなり寒い日が続いておりますが、皆様にはお変わりなくお元気でお忙しい日々をお過ごしのことと思います。夫が亡くなって四ヶ月近く、本当に早いものですね。

毎日夫と話をしております。度々夢に出て来るので・・・困っています。未練があるのでしょうか？でも本当に皆様の温かい看護には感謝にたえません。桜井先生始め、皆様には、夫も喜んでおりました。亡くなった人は一日一日良い想いしか残らないものですね・・・。

今、私は子供の頃にやっていた囲碁を始め囲碁教室に通っております。機会があったら皆様にお会いしたく思っております。皆様のお仕事には感謝致します。これからも、皆様の健康をご自愛下さいませ。ご丁寧なおハガキ嬉しく拝見させて頂きました。早速、夫の前に見ていただいております。ありがとうございました。

冬の嵐の季節となりました。スタッフの皆様は相変わらず献身的に多忙な日々をお過ごしのことと思います。

昨日、父の四十九日法要を済ませました。そして新しい年を迎えようとしております。振り返ってみますと、今年父の検査で始まり、その後はまさか父がこんなに早く逝ってしまうとは想像だにしないまま、必死に新潟と私が暮らしている千葉を往復して過ごして参りました。

あまりにもあっけない終わり方で、郷和の皆様方との出会い、お付き合いはとても短いものとなってしまいましたが、それでも皆様の真摯な思いやとても温かいお心遣いは十分にこちらに伝わりました。それ故に尚一層父の時間の短さが悲しく思えるのですが、本当にありがとうございました。

本来であれば直接お礼に伺いたいところですが、なかなか時間が取れません。また、ご挨拶が大変遅くなりましたこととお詫び申し上げます。桜井先生を始めとする皆様の御活躍を心よりお祈り申し上げます。そして心身ともにとても大変なお仕事と推察致しますが、合わせて御健康も心よりお祈りしております。





1月27日 お茶会（初釜）



2月24日 琴コンサート



3月24日 ライアーコンサート



6月22日 オカリナコンサート

<この1年の行事>

- 1月 お茶会
- 2月 琴コンサート
- 3月 ライアーコンサート
- 4月 お花見
- 5月 節句
コースター作り
- 6月 しょうぶ・よもぎ湯
オカリナコンサート
七夕飾りつけ
- 7月 七夕
うちわ作り
- 8月 ゴスペルコンサート
- 9月 ハイキング
- 10月 手品ショー
- 11月 そば打ち
クリスマスツリー飾り
- 12月 クリスマスコンサート



「緩和研修のかかわりを通じて」

看護師 佐藤 佳江

今年から、介護施設で働く職員のための緩和ケア研修がスタートしました。五泉・阿賀地域に住む患者さんが、安心して在宅療養ができるように、また患者さんを支える介護施設で働く職員の方たちが、自信を持ってケアできることを目標に、この研修が企画されました。一日研修であり、午前中は郷和の桜井医師と長谷川医師による講義、午後からは小池認定看護師の講義とグループワークという形式で行われました。私は、研修を進行する側でお手伝いさせていただきましたが、その中で、たくさんの貴重な意見や感想をいただくことができましたので、一部、紹介させていただきます。

- ・私たちのグループホームでも、看取り、終末期に向けて取り組んでいます。今回この研修に参加し、ご本人・家族の希望を汲み、終末期を迎えられる方へのお手伝いをして行こうとあらためて思いました。
- ・私の働いている施設でも、看取りの段階の方がおられるので、ターミナルケアを知ることができたので、学

びを仕事に活かして行きたいと思いました。今回の研修は勉強になりました。

- ・今までやってきたターミナルケアに自信が持てず、毎回これで良かったのか？他に方法があったのではないかと考えていたが、今回の研修で、自分たちのやっているケアで良かったと思うことができました。今後もよりよいターミナルケアができるように、スタッフに伝えて行きたいと思いました。

他にも、次年度の研修に参考にさせていただける意見がたくさんありましたので役立てて行きたいと思えます。

この研修にかかわらせていただき、介護施設で働く職員の方々の仕事への取り組みや熱い思いを、実際に感じ取ることができました。この体験を生かし、今後とも、研修のお役に立てるよう、自分自身学びを深め、更に努力をして行きたいと思えます。

「郷和」利用状況

(H. 21年4月～H. 22年3月)

入院患者数 152名

一日平均入院利用者数 17.2名

平均病床利用率 86.4%

平均在院日数 44.5日